

2018年03月20日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【豪ドル/円の下落リスク】

今月の初め(3月1日)に、トランプ米国大統領が、鉄鋼とアルミニウムに対して、輸入関税を課すことを発表しました。

このニュースを材料に、米国株式市場が下落し、外国為替市場では、「リスク・オフ(リスク回避)」の思惑が強くなり、その結果として、「円買い」に強く反応しました。

豪ドル/円のチャートを見ると、このニュース(米国の輸入関税)の発表後に、「豪ドル売り円買い」が進み、それで、81.50アラウンドまで下落しました。

81円台ミドルの安値を付けてからは、いったん大きく急反発(急上昇)し、84円台にまでリバウンドしています。

しかし、その後のマーケットでは、再び「豪ドル売り円買い」が進んで、再度、81円台の安値圏で推移しています。

+++++

豪ドル/円に関して考察すると、「リスク・オフ(リスク回避)」ばかりが問題ではない、と考えます。

オーストラリアが、鉄鉱石や石炭・ボーキサイト(アルミの原料)の原産国であることを考えると、「米国の鉄鋼とアルミニウムに対する輸入関税」は、「豪ドル売り円買い」の材料、と考えます。

それで、今月に入ってから豪ドル/円は、相対的な安値圏で、推移しているのではないかと、と危惧しています。

+++++

週明け月曜日(3月19日)の、昨日の海外市場を一瞥すると、英国が欧州連合(EU)と離脱後の移行期間について、2020年末に終了することで合意した、とのニュースが流れた。

このニュースで、「英国のEU離脱問題」で、楽観的な思惑が強まり、マーケット（外国為替市場）は、「ポンド買い米ドル売り」「ユーロ買い米ドル売り」に反応している。

その影響で、昨日の海外市場は、ポンド/円、ユーロ/円は上昇している。

+++++

ポンド/円とユーロ/円が上昇する場合は、通常は（一般的には）、豪ドル/円も上昇することが多い。

ところが、昨日の海外市場では、ポンド/円、ユーロ/円は大きく上昇しているのに、豪ドル/円の上昇は、極めて僅かだった。

こういったところに、先に述べた「原材料の輸出国であるオーストラリア」が、材料視されているのではないかと考える次第です。

+++++

+++++

以下のことは、もう、半年以上も前のことになりますが、今現在も有効と考えます。

昨年（2017年）の7月下旬（7月21日）に、RBA（豪州中央銀行）高官が、以下の発言をしました。

- 「世界的な低金利が豪ドルの押し上げ圧力になっている」
- 「豪ドル高は世界の成長加速の利益を相殺」
- 「豪州の金利は世界の他の中銀に沿った上昇をする必要はない」
- 「(豪ドルの) 為替相場が下落すれば一段の助けとなる」

RBAが、現在の（=このところの）豪ドル高を嫌がっていることは、公式の声明でも明らかです。

また、RBAは、明言している通りに、

- 「豪州の金利は世界の他の中銀に沿った上昇をする必要はない」

として、米国やその他の中銀を追従して利上げを行うことは無い、と考えます。

RBAのスタンスは、明白に「豪ドル安」を望んでいます。

マーケットはの流れが、逆を向いている場合、つまり、「豪ドル高」に向かっている場合は、RBAのスタンスを無視しても良いのですが、マーケットの流れが、「豪ドル安」に向かい出すと、RBAのスタンス（声明や高官の発言）は、クローズアップされる、と考えます。

RBAのスタンスに変更はない、と考えます。

RBA関係者の発言や、政府関係者の発言には、注意すべき、と考えます。

+++++

3月6日開催分のRBA金融政策決定理事会議事録では、
「豪ドル高ならインフレや経済成長の伸びを鈍化させる可能性も」
と繰り返されているので、RBAのスタンスに変更はない、と再確認できた、と考えます。

+++++

(2018年03月20日東京時間14:40記述)